再評価調書

	車	十两州大学士院独山组(4	7 大阪河内巨野娘)			
事業名		主要地方道大阪狭山線(都 大阪河内長野線)				
	所 在 地	美原町北余部~南余部				
	再評価理由	事業採択後10年を経過した時点で継続中				
	目 的		松原市、堺市、美原町を経			
			する主要な幹線道路である			
		本事業は、現大阪狭山線の交通混雑の解消を目的とし				
		パス道路であり、整備完っ	了に伴い交通が分散され自	動車交通の円滑化と歩		
		行者等の安全確保が図れる。				
		また、事業中区間(延長800m)は、平成7年度から府営住宅の建替				
		事業に併せて、住宅へのアクセス道路として整備を行われているところで				
		ある。整備完了に伴い、大型緊急車両の通行が円滑になり、災害時には迅				
事		速な対応が可能となる。				
業	内容	延 長 0.8 k m (町道北余部 2 号線~町道南余部 1 2 号線)				
概		幅 員 35.0m				
要		道路区分 第4種1級 暫定2車線整備(計画4車線)				
女	事業費	全体事業費 約53億円 投資事業費 約35.9億円				
		(内訳)用地費 約40億	意円 用地費 約	3 1 . 9 億円		
		工事費 約13億円 工事費 約 4.0億円				
	//	約7.1百万円/年 (約4.1百万円/km・年)				
	維持管理費					
	上位計画	大阪府都市基盤整備中期計画(案)				
	関連事業	府営美原住宅の建替事業				
	経 過	計画時の想定	現時点での状況	分析		
		事業採択年度 H7 年度	H7 年度			
		事業着手年度 H7 年度	H7 年度			
		完成予定年度 H18 年度	完成予定年度 H18 年度			
事	進捗状況		用地 80%	来年度中に用地買収		
事業の進捗状況			工事 31%	を完了し、引き続き		
進				工事を行い、平成 18		
状				年度に完了予定。		
况	途中段階の	現道や周辺道路が狭小であることから、暫定的な整備を行うことにより、				
	整備効果	交通流の円滑化と交通安全性の向上が図れると供に、大型緊急車両等の通				
	発 現 状 況	行が可能となり、災害時における迅速な対応が可能となる。				
	事業進捗に					
	関する課題					

(現道) 府道大阪狭山線 幅員w = 6 . 5 m 混雑度 1.58(平成6年) 1.51(平成9年) 1.46(平成11年) 24 時間交通量 13,821台(平成6年) 12,848台(平成9年) 12,473台(平成11年) 第書を巡 (現道) 国道309号 幅員W = 21.0m 混雑度 0.62(平成6年) 1.26(平成9年) 1.21(平成1年)	であ 年々 1.0
幅員w=6.5m 混雑度 1.58(平成6年) 1.51(平成9年) 1.46(平成11年) 24時間交通量 13,821台(平成6年) 12,848台(平成9年) 12,473台(平成11年)	であ 年々 1.0
混雑度	年々 1.0
1.58 (平成 6年) 1.58 (平成 6年) 1.51 (平成 9年) 混雑度、交通量ともに 減少しているが、依然 を超えており、交通活 13,821 台(平成 6年) 12,848 台(平成 9年) 12,473 台(平成 11年)	1.0
1.51 (平成9年) 混雑度、交通量ともに 減少しているが、依然 を超えており、交通活 13,821 台(平成6年) 12,848 台(平成9年) 12,473 台(平成11年)	1.0
24 時間交通量 1.46 (平成 11 年) 減少しているが、依然を超えており、交通活を超えており、交通活動。 13,821 台 (平成 6 年) 13,821 台 (平成 6 年) 著しい。 事業目的に関する 12,473 台 (平成 11 年)	1.0
24 時間交通量 24 時間交通量 を超えており、交通活動 13,821 台 (平成6年) 13,821 台 (平成6年) 著しい。 事業目的に関する 12,473 台 (平成11年)	
13,821 台(平成6年) 事業 目的に に関	雑が
事業 目 的 に 問	
事業目的に関する。 (現道) 国道309号 国道309号 幅員W=21.0m 信員W=21.0m 12,848台(平成9年) 12,473台(平成11年) 12,473台(平成11年) 12,473台(平成11年) 12,473台(平成11年) 12,473台(平成9年) 12,473台(平成11年) 12,473台(平成11年	
事業を巡 (現道) 国道309号 国道309号 幅員W=21.0m 信員W=21.0m 12,473台(平成11年) 12,473	
事業を巡りがある。 (現道) (現道) 国道309号 国道309線 交通量は増加している。 福員W=21.0m 幅員W=21.0m も関わらず、混雑度が	
事業を選集 (現道) 国道309号 国道309線 交通量は増加している。 報員W=21.0m も関わらず、混雑度が	
を 諸 国道309号国道309線交通量は増加してい3 沢 幅員W = 21.0m幅員W = 21.0mも関わらず、混雑度が	
	るに
	微減
在	混入
情	
1.26 (平成 9 年)	
1.21 (平成 11 年)	
24 時間交通量 24 時間交通量	
40,848 台(平成 6 年) 40,848 台(平成 6 年)	
41,418 台(平成 9 年)	
41,809 台(平成 11 年)	
│	引け、
│ │ 地 │る。	
地 る。	0
場 緩和並びに交通の安全確 緩和並びに交通の安全	
刀 保の観点から早期整備が 確保の観点から早期整 体 を	

		計画時の想定	備 考	現時点での状況(変更点)	分析
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益の分析手法が確立されておらず、算出できず。	・具体的な便益内容 走行時間の効果 (走行時間の短縮) 走行経費の効果 (時間短縮による走行経 費の節減) ・受益者 道路利用者	 ・B/C= 6.98 便益総額 B= 726.69億円 総費用 C= 104.18億円 B/C算定区間 大阪狭山線(美原町西大響地内)	
	その他の指標 (代替指標)	・混雑度 ・交通量			
事業効果の定性的分析	安全・安心	・歩車分離による交通安全機能の向上 ・災害発生時の緊急輸送路、避難路の確保 ・周辺狭小道路への迂回交通量減少による安心・安全 性の向上	・受益者 地域住民、道路利用者、道路 管理者	変更点特になし	
	活力	・地域間交流連携の強化 ・物流の効率化の支援	・受益者 地域住民、道路利用者、就労 者	変更点特になし	
	快適性	・十分な幅員が確保された歩道による快適性の向上 ・周辺狭小道路の迂回交通量減少による快適性の向上	・受益者 地域住民、道路利用者	変更点特になし	
	その他				
自然環境等への 影響と対策		・道路の整備により旅行速度が向上し、CO2の排出量 ・植樹帯の設置により、緑の回復に努める。	が削減される。	変更点特になし	
その他特記すべき事項					